

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	薬剤アレルギー等の原因特定のための迅速診断法の開発（中毒疹における原因疾患の早期鑑別診断法の開発）
研究期間（西暦）	2015年6月～2022年7月
研究機関名	大阪大学医学系研究科皮膚科学教室
研究責任者職氏名	助教 中川 幸延

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

中毒疹とは薬疹やウイルス性発疹症など様々な疾患が原因で生じうる紅斑です。この研究は中毒疹の原因を迅速に診断する方法を開発するために行います。中毒疹の原因となった薬剤やウイルスなどが迅速に特定できるようになれば、本当はウイルス性発疹症なのに薬疹として不必要に薬剤を中断する必要がなくなり、患者さんの治療が継続して行えるようになります。方法としては血液にいる細胞がどのような動きをするか、そして実際に中毒疹の紅斑を引き起こしている細胞がどのようなタンパク質をつくっているのかを薬剤アレルギーやウイルス感染症といった病気ごとの特徴を調べます。それぞれの特徴となる物質が特定できれば、実際に病気が発症した患者さんで原因の特定につながる診断法として応用できるように改良していきます。この研究には比較対照として健常の方の血液が必要であり、廃棄される献血血液の成分を有効活用します。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液等の種類：白血球除去工程後のフィルター

献血血液等の情報：なし

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

共同研究機関はありません。

4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：行いません。 行います。

《研究方法》

薬剤アレルギーやウイルス感染症の患者さんの血液と比較するために、健常な方の献血血液を使用します。

血液から末梢血単核球（单球やリンパ球を含む单核細胞）を分離したのち、T細胞（リンパ球の一種）を取り出します。このT細胞の表面に発現しているマーカーや、細胞の中にある免疫を調整する成分、また、サイトカインといった細胞が出す機能物質について解析を加えていきます。また、RNAシーケンシング（RNAの配列情報の解析）の手法を用いて遺伝子発現を調べ、患者血液と献血血液を比較します。なお、献血血液の遺伝子解析については、病的遺伝子を探るものではありません。

5 献血血液等の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

6 上記5を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号

R020001

本研究に関する問い合わせ先

所属	大阪大学医学系研究科皮膚科
担当者	吉岡華子
電話	06-6879-3031
Mail	u683063c@ecs.osaka-u.ac.jp / stain_way@yahoo.co.jp